

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が家族や地域の人々とのつながりを大切にしながら、自分らしく生きていけるように支援する。ことをホームの理念とし全職員が共有し実践につなげている。	理念に基づき、特にその中でも実勢したい事柄を、別にスローガンとして、大きく張り出し、つねに意識し、理念実践につなげている。	;p
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所のイベントに地域の方々を招待するよう、積極的な地域交流に努めている。	買い物デーを決め地域とのふれあいを深め、消防訓練時等施設外での訓練も取り入れ、前後を通じ地域近隣との交流の場となるよう配慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ充分とはいえないが、日々積み上げてきた認知症の人の支援方法を地域の人々に向けて活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいた貴重なご意見は、全職員が共有し、サービスの向上に活かすよう対応している。	会議録を職員全員が随時見られるようにし、スタッフの意見集約、周知をはかり、サービスに生かしている。毎朝の会議でも、随時議題としている。	運営委員会の頻度を上げたり、出席者の構成を考え、なるべく多い出席が得られるような方に依頼するなど、方向性が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの向上のため、積極的に協力関係を築くよう取り組む。	区役所担当課や、包括支援センターとの連携を図り入居者への個別のサービス向上にもつなげている。日常的に担当課との相談が必要な、入居者もあり、良好な協力関係を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者一人での外出による事故防止のため、玄関の鍵のみ施錠している。玄関以外には鍵をかけていないので、事業所内は自由に出入りができる。	一階二階との出入りや施設内において、自由に出入りしている。	駅ロータリー近くの立地ではあり、事故危険率が高いとは思われますが、できるだけ無施錠をはかれることがのぞまれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修で、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は個々の必要性のある利用者には、関係者と話し合い、サービスの利用について支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は利用者や家族等に十分な説明を行い、安心して入居していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内には、ご意見箱を設置し、利用者や家族等が意見、要望を表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関の意見箱に寄せられた内容、家族からの要望などうけ、サービスに反映している。日報 会議などで周知を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開き、運営に関する職員の意見や提案を施設運営に反映させている。	全員参加の定例会議、毎朝の会議時に自由に発言ができるようにし、意見、提案をさせている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況を把握し、年1回昇給し、やりがいや向上心を持って働ける職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議時に内部研修を取り入れると共に、外部の研修も積極的に受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、地域の同業者と交流する機会をもち、研修会や講習会で情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談時、時間をかけ、本人の要望、不安なことを充分把握し、できるだけ早くホームの雰囲気馴染めるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人、家族等が希望すれば、お試しで仮入居して頂き、充分納得していただいてから本入居していただくサービスを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の希望に沿って、訪問看護、訪問リハビリ、訪問歯科等他のサービスとの併用も積極的に取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの大きい家族との意識のもと、何でも我がままを言い合える関係を築けるよう、職員に周知し支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との連携を大切に、共に支えあう関係であるということを理解していただけるよう努め、利用者と家族の絆を大切にしたいだけよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者や家族の希望に沿って、これまで築いていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、要望を叶えるよう支援している。	施設近くの入居者などは、外出じなど知人友人宅へ、同行し、連絡方法として、電話、手紙など、援助している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が孤立せず仲良く生活していただける橋渡的存在に職員がなり、全ての利用者がお互いに支えあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いつでも相談していただける存在になれるよう、職全員が自覚できる教育に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位のサービス利用ができるよう介護計画を作成し、支援している。	生活環境 希望に応じ、サービスに反映し、ベットから畳にするなど、要望に応じている。意思疎通困難に対しては、スタッフ 家族など関係者と相談しあい、しぐさや、身体状況など総合的に判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、利用者、前ケアマネージャー、ケースワーカー等からの情報をもとに生活歴、職歴、病歴等充分把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のペースに合わせて一日を過ごして頂くよう、食事時間、入浴時間等調整して支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に家族、利用者、必要な関係者と充分話し合い、それぞれの意見をいただき、利用者が納得される介護計画の作成に努めている。	モニタリングの結果を生かし介護計画の作成をしている、必要に応じ身体状況、家族意見、スタッフ、等の意見により随時行っている。介護度の変更時またおおむね半年ぐらいを目安に定期的に検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のモニタリングにより、日々の様子やケアの結果、気づきや工夫を個別に記録し、全体会議で検討し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況、身体的、精神的変化に柔軟に対応し、個々の状況に最適のサービスの提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の生活歴、関わっている地域資源を把握し、本人の生き生きとした豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に沿ってかかりつけ医を決定している。定期的及び病状に応じた受診、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の往診を二週間に一度定期往診なじみ医による往診 通院など病状に応じ、希望を取り入れ、対応している、	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	モニタリングで浮彫になった利用者の情報や気づきを看護師に相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。」		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、家族、病院関係者と連携を取りながら、家族、利用者の要望に沿って支援できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、家族、利用者とは充分話し合い、家族、利用者の要望に沿って、医療、看護関係者と連携して支援している。	入居時の書類に関わらず、適時 家族 本人 医療機関などと、連携し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時、職員は管理者、看護師の指導のもと、適切な対応を取るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導のもと、地域包括支援センター、民生委員、地域代表の方の参加のもと防災訓練を実施している。	消防との協力の上 周辺住民など共同して施設外訓練、室内からの避難訓練等、様々なメニューを組み入れ行っている。	防火、地震、等訓練を多様化したり、頻度を上げるため レクリエーション的要素、を取り入れるなど、回数、内容に、工夫され一層効果的になることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期会議の中で、利用者の尊厳とプライバシー保護のための研修を実施し、全職員が周知できるような体制に努めている。	施設玄関に掲示し定期会議や毎朝の会議時を利用し、周知を図っている。性別や、身体状況などに配慮し、本人の希望を尊重し、声掛けなど、している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで職員と利用者の信頼関係を築くように努め、利用者が本人の思いや希望を表したり、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者の体調に配慮し、その時々気持ちを尊重して一人ひとりのペースを大切に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう、職員がさりげなく支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間が楽しみなよう、それぞれの苦手なもの、好物など職員が周知し、工夫して提供している。それぞれのレベルにあった役割を分担して皆で食事の準備をしている。	好みに合わせメニューを作る、其々の食事スピードや量に合わせる対応急がせず、押し付けない方法が採られている。片付けなど入居者ができる範囲で協力している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量、食事量を個々に記録し、一人ひとりの食べる量や栄養バランスを考慮して食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持が維持できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導して、できるだけトイレでの排泄習慣を維持できるよう支援している。	1日4回程度時間を決めトイレ誘導をし、随時声掛けなどにより対応している。なるべく自力で行えるよう、入居差に合わせた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数を個々に記録し、排便習慣を把握し、個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴予定表を作成しているが、利用者が満足できる入浴時間や入浴順を調整し、]ゆったり楽しめるよう支援している。	週3回の入浴予定をくみまんツウマンは又は介助者を2人つけるなど対応し、1人ずつゆっくり30分程度の時間をかける。また同姓介助による対応など、している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じた休息が安眠ができるよう個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の作用、用法や容量について全職員が周知し、服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりのできることを把握すると共に、利用者のできることを生活の中で発揮することができるよう、場面づくりをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って、外食、喫茶、散歩や買い物に出かけるなどの支援をしている。	買い物デーを決めゆっくり外出する時間をとること、近所の公園などに散歩など、身体状況に合わせ対応している。	施設スペースが限られることもありますが、日光浴などできる方法があればなお望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は一人ひとりの希望や力を周知し、お金を所持したり、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの要望に応じて、自ら電話したり、手紙のやりとりができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットのホームは開放感があり、利用者が自由に交流できる構造になっている。又玄関には、季節を感じられる花々を植え、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	食堂など全員があつまるスペースは温度管理に気配りし、個々の状況に合わせ居場所の配慮、大きめのソファや、柔らかい椅子の利用、移動等に邪魔になる物は、まめにかたづけするなど転倒防止の配慮、窓をなるべく開け換気、や外気に触れるなど行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間は明るく、カーテン等で適度に陽光を調節している。季節のアレンジメントフラワーや生花を活けるなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込んでいただき、自宅での生活感を継続していただけるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室には、分かりやすく名前が書かれ、共用部分のトイレ、浴室、洗面部分にものれんや張り紙を張って迷わない工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容